

平成30年7月豪雨災害における緊急消防援助隊大阪府大隊活動概要



活動の中で

第2次派遣 統合機動部隊(救急)
大阪市消防局 救急課
本部救急隊
消防司令補 太田 真司

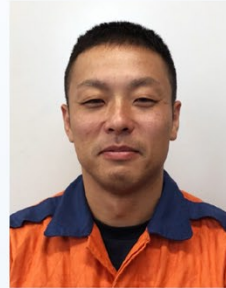
私は、大阪府大隊第2次派遣で、統合機動部隊の救急隊(主な任務は救急指揮支援活動)として先遣任務に就きました。

被災地へ到着後、まず、情報収集のために広島市消防局安芸消防署へ向かいました。消防署内は騒然としていて、次々に指令トーンが鳴り、全職員が災害対応に追われている状況でしたが、救急担当の方から丁寧に被災状況や管内情勢、医療機関等の情報を教えていただいたおかげで、後着の救急隊に正確な情報を伝えることができ、翌日以降の円滑な救急活動につなげることができました。

救急指揮支援活動で一番苦労したことは、救急中隊の動態管理、医療情報の把握や傷病者情報の管理等を行う中での「情報の集約」です。集めた情報の断片を評価・分析して精度の高い情報へと整理し、的確に各救急小隊へ還元できるかが重要で、大阪府大隊の編成部隊として効果的な活動ができるようバックアップすることに努めました。

今回の派遣を通じて、「大阪府が受援側になったとき」についても深く考えさせられました。

最後に、豪雨災害により亡くなられた犠牲者の方々の御冥福と、被災地の復興を心からお祈り申し上げます。



西日本豪雨災害 緊急消防援助隊の 派遣について

第2次派遣 統合機動部隊(救助)
大阪市消防局 警防課
本部特別高度救助隊
消防司令補 澄川 功

7月6日23時50分に私は統合機動部隊の一員として広島に派遣され、上瀬野地区での捜索救助活動に従事した。

親子3人の要救助者情報。土石流により、不自然に傾いた住宅、緩んだ地盤、大量の堆積物など二次災害の危険性が高い活動環境。異常気象とも言われる暑さの中での活動。これが上瀬野地区の捜索救助現場の状況であった。

要救助者情報があつた住宅は、崩れて原型をとどめておらず、中に取り残されている要救助者の捜索活動は、困難を極めた。

そんな過酷な状況の中、2日間にわたり一人でも多くの命を救うため、一心不乱に救助活動を続けた。残念ながら生存者の救出には至らなかったが1名の要救助者を家族のもとに帰すことができた。

今回の派遣で、私は人を助けるという崇高な目的を果たすには高度な救助技術や専門知識だけではなく、どんなに困難な活動であっても要救助者やその家族のことを思い強い信念を持ち続け、あきらめないことがもっとも大切であるとあらためて痛感した。